

## フィデューシャリー・デューティー宣言

2023年10月4日

石川 泰

私は、金融教育に携わる者として、顧客本位の業務運営に関し、次のとおりフィデューシャリー・デューティーを遵守することを宣言いたします。

### 1. 顧客本位の業務運営に係る方針の策定・公表等

- 私は、顧客本位の業務運営を実現するために、中立的な立場で、明確な方針を策定し、ホームページ等においてそれを公表致します。
- 当該方針の取り組み状況を、定期的にホームページ等に公表するとともにより良い業務運営を実現するため、当該方針を見直します。

### 2. 顧客の最善の利益の追求

- 1人ひとりお金に係る問題は異なり、適した利益も異なります。そのため、顧客自らが金融商品を正しく理解し、自身に合ったリスクを把握することの手助けを行い、自らが判断を下すサポートを致します。

### 3. 利益相反の適切な管理

- 金融機関に属しないと共に金融商品の販売、勧誘または、金融商品を販売することによって生じる販売手数料等の支払いを受けることは一切ありません。

### 4. 手数料等の明確化

- 私は、福利厚生、金融教育に係るサービス開発事業者として、サービスに係る費用は事前にホームページ等に公表の上、サービス利用者が事前に理解していただけるよう情報提供を致します。

### 5. 重要な情報の分かりやすい提供

- 提供サービス内で提供する、確定拠出年金制度や NISA 等の各種制度、投資信託、保険等を含む金融商品について、顧客にどのような利益があり、どのようなリスク、コスト等を負担するのかを、十分に理解いただけるような情報提供を致します。

### 6. 顧客にふさわしいサービスの提供

- 私の最大の目標は、顧客であるサービス利用者が自らの人生と照らし合わせ、リスクターンを踏まえた上で投資に関する方針を策定することを支援することです。この目標を実現するためには、当社のシステムの設計思想を明確に示し、顧客に中

立的で正しい情報の提供が不可欠です。

- そのため、顧客の状況、知識、経験、ニーズを十分把握すると共に、顧客自らの意思によって行動を選択出来るような知識・情報の提供に務めます。

#### 7. 従業員に対する適切な動機づけの枠組み等

- 自らの業務運営のあり方が、「顧客本位」の観点で適切であったかを適宜、自己点検すると共に顧客に対する同様の理念もつ仲間と適宜、自己評価と課題について相談・確認することで業務のあり方を点検します。
- 今後、業務拡大にあたって、ゆるぎない「顧客本位」の観点での適切なガバナンス体制を整備していきます。

以上